

歴史探訪 Part II - ⑮

江戸川木材工業株式会社

顧問 清水 太郎

先日、BSテレビで 東海道線の旅、懐かしのメロディーで、「日本再発見、新橋－熱田を巡る」とのテーマで2時間の放映がありました。

鉄道唱歌 1番－34番までボニージャックスのハーモニーがゆったりとしたテンポで流れ、徳光和夫氏の名調子も楽しく、新橋から名古屋まで私達を乗せて走り続けます。

妻にスマホで歌詞を写してもらい、口ずさみながら1番－34番までも下記書き留めました。

- ①汽笛一声新橋をはや我汽車は離れたり、愛宕の山に入りのこる月を旅路の友として
- ②右は高輪泉岳寺四十七士の墓どころ、雪は消えても消えのこる、名は千載の後までも
- ③窓より近く品川の台場も見えて波白く、海のあなたにうすがすむ、山は上総か房州か
- ④梅に名をえて大森をすぐれば早も川崎の 大師河原は程近し 急げや電気の道すぐに
- ⑤鶴見神奈川あとにしてゆけば横浜ステーション 湊を見れば百舟の煙は空をこがすまで
- ⑥横須賀ゆきは乗換と呼ばれておる大船の つぎは鎌倉鶴ヶ岡 源氏の古跡や尋ね見ん
- ⑦八幡宮の石段に立てる一木の大鴨脚樹 別当公暁のかくれしと 歴史にあるは比陰よ
- ⑧ここに開きし頼朝が幕府のあとは何かたぞ 松風さむく日は暮れて こたえぬ石碑は苔あおし
- ⑨北は円覚建長寺 南は大仏星月夜 片瀬腰越江ノ島もただ半日の道ぞかし
- ⑩汽車より逗子をながめつつ はや横須賀に着きにけり 見よやドックに集まりし わが軍艦の壮大を
- ⑪支線をあとに立ちかえり わたる相模の馬入川 海水浴に名を得たる 大磯見えて波すずし
- ⑫国府津おるれば馬車ありて 酒匂小田原遠からず 箱根八里の山道も あれ見よ雲の間より
- ⑬いではくぐるトンネルの 前後は山北小山駅 今もわすれぬ鉄橋の 下ゆく水のおもしろさ
- ⑭はるかにみえし富士の嶺は はや我そばに來りたり 雪の冠雲の帯 いつもけだかき姿にて
- ⑮ここぞ御殿場夏ならば われも登山をこころみん 高さは1万数千尺 13州もただ一目
- ⑯三島は近年ひらけたる 豆相線路のわかれみち 駅には比地の名を得たる 官幣大社の宮居あり
- ⑰沼津の海に聞こえたる 里は牛伏我入道 春は花咲く桃のころ 夏はずしき海のそば
- ⑱鳥の羽音におどろきし 平家の話しは昔にて 今は汽車ゆく富士川を 下るは身延の帰り舟
- ⑲世に名も高き興津鯛 鐘の音ひびく清見寺 清水につづく江尻より ゆけば程なき九能山
- ⑳三保の松原田子の浦 さかさにつる富士の嶺を 波にながむる舟人は 夏も冬とや思うらん
- ㉑駿州一の大都会 静岡いでて安倍川を わたればここぞ宇津の谷の 山きりぬきし洞の道
- ㉒鞆より抜けておのづから 草なぎはらひし御剣の御威は千代に燃ゆる火の 焼津の原はここなれや
- ㉓春咲く花の藤枝も すぎて島田の大井川 むかしは人を肩にのせ わたりし話も夢のあと
- ㉔いつしか又も暗となる 世界は夜かトンネルか 小夜の中山夜泣石 問えども知らぬよその空
- ㉕掛川袋井中泉 いつしかあとに早なりて さかまき来る天竜の 川瀬の波に雪ぞちる
- ㉖この水上にありと聞く 諏訪の湖水の冬げしき 雪と氷の懸橋を わたるは神か里人か

- ⑲琴ひく風の浜松も 葉種に蝶の舞坂も うしろに走る愉快さを うたうか磯の波のこえ
 ⑳煙を水に横たへて わたる浜名の橋の上 たもと涼しく吹く風に 夏ものこらずなりにけり
 ㉑左は入海しずかにて 空には富士の雪しろし 右は遠州洋近く 山なす波ぞ砕けちる
 ㉒豊橋おりて乗る汽車は これぞ豊川稲荷道 東海道にてすぐれたる 海のながめは蒲郡
 ㉓見よや徳川家康の おこりし土地の岡崎を 矢矧^{やはぎ}の橋に残れるは 藤吉郎のものがたり
 ㉔鳴海しぼりの産地なる 鳴海に近き大高を 下りておよそ1里半 ゆけば昔の桶狭間
 ㉕めぐみ熱田の御やしらは 三種の神器の一つなる その草薙の神つるぎ あおげや同胞4千万
 ㉖名だかき金^{しやちほこ}の鯨は 名古屋の城の光なり 地震のはなしまだ消えぬ 岐阜の鵜飼も見てゆかん

以下、鉄道唱歌を歌いながら、私の体験も交えて歴史探訪します。

①新橋横浜間に鉄道が開通したのは、1872(明治5)年でありました。始点は今の汐留、終点は桜木町で、距離は約29km、イギリスから輸入した蒸気機関車に引かれて走りました。客車内は畳が敷いてあり、客は履物を脱いで乗りました。うっかりプラットフォームに置いた人も居り、降りる駅で履物がないことに気付き、あわてた人もおりました。

鉄道唱歌が作られたのは1899(明治32)年でありました。愛宕の山は標高25.7m、NHKの放送局がありました。

②泉岳寺のある高輪は、「お江戸日本橋七つ立ち」と謳われており、江戸時代の旅人は、日本橋を午前4時に出発し、約1里歩きますと高輪に着いて木戸が開き、ここで抵灯の火を消します。

③窓より近く品川の台場も見えてここの台場とは、黒船来航後、江戸幕府は異国の襲来に備えて砲台を設置し、その基礎をお台場と呼びました。幸いなことに、ここから大砲が発射されることはありませんでした。

今は、ダイバーシティとして発展し、港区、品川区、江東区の埋立地にゆりかもめが走り、来場者は年間3千万人を超え、2020年東京オリンピックの競技場、ホテル等が達ち、注目の的となっております。品川駅には新幹線が止まり、最近着工したりニア新幹線の始発駅となり、山手線の新駅が田町と品川の中間にできます。

④大森の梅屋敷前を通り、六郷川(多摩川)を渡れば、川崎大師は近い。電気の道とは、日本初の電車、京急大師線のことです。大師名物はくず餅と飴切りの音。

⑤鶴見の総持寺、神奈川を後にして、横浜ステーションに到れば、湊に出入する蒸気船の煙は空を焦がす勢い。

⑥「横須賀方面は乗り換えです」との声で大船で降り、鎌倉鶴ヶ岡八幡へ詣で、源氏三代の古跡を尋ねるのもよい。

⑦八幡宮の石段脇にある大銀杏、ここにかくれて将軍を殺害したのは別当公暁と歴史は語る。

⑧頼朝が開いた鎌倉幕府のあとはさびしく、石碑は苔むしている。

⑨鎌倉五山は、達長寺、円覚寺、寿福寺、浄智寺、浄妙寺、南へ行けば長谷の大仏、片瀬、腰越、江ノ島は半日コース。

⑩支線の旅を終えて本線に戻れば、馬入川を渡り、海水浴で有名な大磯に到る。

⑪当初の東海道線は国府津から御殿場経由で沼津に到る。

⑭御殿場から眺める富士山は、高さ3,776m、13州(武蔵 相模 下総 上総 安房 常陸 伊豆 駿河 甲斐 遠州 上野 下野 信濃)を一望に。

⑮『平家物語』によりますと、富士川を挟んで対峙した源平両軍でありましたが、突然飛び立った大群の鳥の羽音に驚き、一勢に逃げた平氏、源氏は戦わずして大勝利を得たと云われておりますが、これも昔のこととて真偽のほどはわからず、今の富士川は身延帰りの舟が下り、平和であります。

⑯私の道中で興津の宿は予約していなかった為、何軒かたずね歩き、ようやく確保することが出来ました。翌日は、名高き興津の鯛ならぬ鯔の押し鮓をお女将に作ってもらい、鐘の音ひびく清見寺まで弥次 岳多道中の後、萱原画伯は、清水港、薩埵峠の絶景をスケッチし、後日色着けし、共同出版した旅日記の表紙を飾りました。

⑰私が独りで通った草薙は、『日本書紀』にも登場する由緒ある地で、大和武尊が東征の際、火をかけられた森で、姉ヤマトヒメから授かった刀で草をなぎ倒して防いだ故事により、三種の神器の一として熱田神宮に納められた、と云われております。

⑱鳴海しほりて知られている有松から桶狭間まで1里半、ここで3千の織田軍が5万の今川軍を破りました。

⑳前半のフィナーレは、金の鯨で名高い名古屋城です。

次回は、名古屋－神戸まで探訪します。



泉岳寺赤穂義士墓所

出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>